

ゆざわのまち・ひと・しごと

# ひと おらが

たかはし ますお  
漆芸家 高橋 斗雄 さん

川連漆器の塗り師である高橋さんは、その傍ら漆芸家として活動し、日本最高峰の美術展といわれている「日展」（正式名「日本美術展覧会」）において、数多くの入選を重ねてきました。昨年の第118回日展・第4科（工芸美術）に出品した作品「リサイタル」は特選に選ばれ、名実ともに産地を代表する漆芸家として活躍されています。

ご自宅内の工房にて

## 漆に込める 自然美への飽くなき探求心

——漆芸家になったきっかけを教えてください

同業者から誘われたことがきっかけです。当時の稲川町では、全国的に有名な漆器産地に負けないよう、日展受賞者の多数輩出を目指し、産地全体でスキルアップに取り組んでいました。そうした環境の中で、切磋琢磨しながら腕を磨いてきました。

——楽器をモチーフにしている作品が多いですね

音楽を聴くことが好きで、今でもよくプロの方のコンサートに行きます。日展に出品し始めた当初は、教会や旅先で訪れた廃鉱などを題材にさまざまな作品を制作してきましたが、「10回入選したら好きなことをやろう」と決めていました。そこから楽器をテーマにした作品を作り続け、もう20年ほどになります。周りからは「いつまでやってるのか」と突っ込まれていますが（笑）

——制作にはどれだけの時間がかかるのでしょうか

一つの作品を仕上げるまでトータルで2〜3年かか



特選受賞作品「リサイタル」

（画像提供：公益社団法人 日展）

特徴的な曲線は、首を折り畳んで眠る白鳥の姿から着想を得ている

ります。その大半は頭の中で構想を練り、イメージを膨らませたりする時間です。いざ作業を始めてからは半年足らずで完成します。

——制作する上でのこだわりを教えてください

私の場合は、カーボン紙にクレヨンでイメージを描くことから始まります。ただ、制作中に下絵を見返すことはほとんどなく、目の前の作品に向き合い、微調整を何度も重ねていきます。自然の中にある美しさに負けない曲線美を生み出すことが私のこだわりです。

——今後の展望などがありましたら教えてください

日展への出品は私のライフサイクルなので、これからも継続していきたいと考えています。産地としては後継者育成が課題なので、自分の作品がきっかけで興味を持ってくれる若い方が増えたらうれしいですね。

